

1 題材名 和音の美しさを味わおう**2 題材の目標**

和音の響きの変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりし、和音の響きの美しさを味わう。

3 題材について**(1) 児童観**

1学期に学習した「いろいろなひびきを味わおう」では、音や旋律の重なりによって生まれる響きや、合唱、合奏、合唱奏のそれぞれの響きを味わった。また、5年生では、和音について知り、表現や鑑賞の活動を通して和音の響きの美しさを体得する学習を行っている。しかし、I度、IV度、V度の和音をそれぞれに聴き取ることはできるが、それらをつなげて和音の変化を感じて表現する学習経験はほとんどない。また、表現については、変声期にさしかかり高音の発声に不安を感じている男子児童もいて、歌唱活動に消極的な児童がみられるが、一方で、器楽の活動には多くの児童が自信をもって取り組んでいる。鑑賞については、音楽を聴いてそのよさを感じる事ができても、それを言葉で表現することが難しいと感じている児童が多い。

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容A表現(1)「エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」B鑑賞(1)「イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」を受けて設定されたものである。ここでは、和音および和声の響きの美しさを味わうことを中心に学習を進めていく。これまでに、児童はさまざまな活動を通して、音や旋律が重なり合う響きを感じ取ってきた。ここではさらに和音の違いや移り変わりを歌唱で表したり、聴き取ったりする学習活動を位置づけ、和声の響きや和音の移り変わりのよさや美しさを味わえるようにする。

(3) 指導観

題材のねらいにせまるために題材構成を工夫する。まず、「こげよマイケル」「燃え上がれ！」の2つの歌唱教材を使い、長調と短調の和音やその変化を聴き取り、それぞれの曲想を感じ取って歌唱する。さらに、「野ばら」と「コラール」で、和声の響きや和音の移り変わりを聴き取り、そのよさや美しさを味わう。そして、「ふるさと」「星の世界」の表現を通して、それまでに学んだことを生かし、和声の響きや和音の移り変わりを生かした表現の仕方を考え、工夫する。このような活動を通して、和声の響きや和音の移り変わりのよさや美しさを味わうと共に、全体の中で響きを調和させ、心を合わせて表現することの喜びを味わえるようにする。

4 教材について

- ・「こげよマイケル」 アメリカ民謡・黒人霊歌 長崎一男日本語詞 長谷部匡俊編曲
- ・「燃え上がれ！」 アメリカ民謡・黒人霊歌 白石純日本語詞 北里康太郎編曲
- ・「星の世界」 川路柳虹日本語詞 コンバース作曲 飯沼信義編曲
- ・「ふるさと」 文部省唱歌 高野辰之作詞 岡野貞一作曲 浦田健次郎編曲
- ・「野ばら」 近藤朔風日本語詞 ウェルナー作詞 橋本祥路編曲
- ・カンタータ147番から「コラール」 バッハ作曲

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①各声部の歌声や楽器の音と全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の声や音を友達の声や音と調和させて歌ったり演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。 ②旋律と和音の関わり合いによってつくられる音楽の縦と横の関係を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	①調、音の重なり、和声の響き、音楽の縦と横の関係を感じ取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。 ②主な旋律や副次的な旋律、全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の声や音を友達の声や音に調和させて合唱や合奏をしている。	①旋律や和音の変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の縦と横の関係を理解して聴いている。

6 学習と評価の計画

次	時	ねらいと主な学習活動	〔共通事項〕	指導上の留意点と 題材の評価規準、評価方法
1	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 和音の移り変わりを楽しみながら合唱する。 ・和音の移り変わりを感しながら合唱する。 ・イ短調の I, IV, V の和音を知る。 ・長調と短調の調性を生かして表現を工夫する。 敬こげよマイケル 燃え上がれ	(ア) 調音の重なり 和声の響き (イ) 音楽の縦と横の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習に取り組めるよう、グループ合唱をする。高音の発声に不安を感じている児童には、教師がパートの旋律を工夫したり、パート分けに配慮したりする。 ◇自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(アー① (観察, 学習カード)) ・イ短調の和音の響きをハ長調の和音と比べることで、調性による曲想を感じ取り、表現の工夫につなげるようにする。 ◇曲想を生かした表現の仕方についての考えを言葉で表している。(イー①, 〈発言, ワークシート〉) ◇歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。(ウー①, 〈練習, 学習カード〉)
2	4 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ● 和音の移り変わりを楽しみながら和声の響きを味わう。 ・「野ばら」を鑑賞し、和声の響きの美しさを味わう。 ・「コラール」を鑑賞し、オーボエの旋律に対してオーケストラの旋律がどのようにになっているかを聴き取り、和音の移り変わりのよさを味わう。 敬野ばら コラール		<ul style="list-style-type: none"> ・和声の響きの美しさを味わうために、「野ばら」の和音を実際に演奏してみる活動を位置づける。 ◇旋律と和音の関わり合いによってつくられる音楽の縦と横の関係を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。(アー② 〈発言, 学習カード〉) ・旋律を聴き取って和音で演奏される場所を見つけ、和音を実際に演奏することでその移り変わりを味わう。 ◇旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の縦と横の関係を理解して聴いている (エー① 〈発言, ワークシート〉)
3	6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ● 和声の響きを感じ取りながら、合唱する。 ・互いの声や音を聴き合いながら、全体の響きを考えて「ふるさと」と「星の世界」を合唱、合奏する。 ・曲想にふさわしい表現の仕方や和音の美しさを感じながら、互いに合唱や合奏を発表し合う。 敬星の世界 ふるさと		<ul style="list-style-type: none"> ・高い声を出しにくい男子児童が安心して歌えるよう、パートの旋律を工夫する。 ・児童が個別に練習できる場を設定し、グループの練習の途中でも児童が自分のパートの旋律を確かめたり、教師が児童に個別にアドバイスしたりする。 ◇主な旋律や副次的な旋律、全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の声を友達の声に調和させて合唱や合奏をしている。(ウー② 〈練習, 発表〉) ・発表を聴き合う時には、どのような工夫をして曲想を表現しているのかに注目して聴き合うよう、助言する。 ◇曲想にふさわしい表現や合唱の響きの美しさを意識しながら、合唱したり、聴いたりしている。(アー① 〈発言, 発表, ワークシート〉)

7 本時の指導 (第5時)

- (1) 目標 音楽の中から和音で演奏されているところを見つけ、実際に演奏してみることで、和音の移り変わるよさを味わう。
- (2) 準備・資料 和音進行を示した図、教材曲の構造を表した図、ワークシート、学習カード
- (3) 展開

学習活動と内容	指導上の留意点と評価 (・指導上の留意点 ◇評価規準〈評価方法〉)																												
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>和音の移り変わりを味わおう。</p> <p>※和音の移り変わりをを見つける →和音の移り変わりによって…。</p> <p>2 和音で演奏されるところを見つける。</p> <p>(1) 旋律のちがいを聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴き、気付いたことを書く。 <p>【期待される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管弦楽と合唱の音色が聞こえた。合唱のところが和音で演奏されるところかな。(楽器の音色) ・細かいリズムの旋律とゆるやかな旋律がある。ゆるやかなところが和音で演奏されるところかな。(リズムや旋律) ・表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が本時のめあてを明確にもてるようにするために、本時の課題を提示した後で、和音の移り変わりをを見つけ、感じたことを基に紹介文を書くことが本時の目標であることを伝える。 ・「音楽の感じが変わるよ。分かるかな？」と投げかけ、楽器の音色やリズム、旋律に注目することが見つける手立てとなることを示し、意欲を喚起する。 ・オーケストラと合唱による演奏を聴き、オーケストラの旋律の中に合唱の和声的な旋律が現れるという、教材曲の構造を捉えられるようにする。 ・管弦楽の旋律の中に合唱の和声的な旋律が現れる様子をブルーとピンクで色分けした図で示し、教材曲の構造を視覚的に捉えられるようにする。図を示した後で、「AとBのどちらに和音の移り変わりがあるのか」をたずね、Bの部分であることを確認する。 ・音楽を聴いて構造を確かめるために、和音で演奏される場所で手を挙げる活動を位置付ける。 ・教師がピアノで演奏し、B部分が和音で構成されていることを確かめる。 ・I→IV→I→I→IV→I→Vの和音進行を掲示物で示し、「同じ和音があるか？」と投げかけ、B部分が「ソ・シ・レ」、「ソ・ド・ミ」、「ファ・ラ・レ」の3つの和音で構成されていることを確かめる。 ・3つの和音を3つのグループで分担し、グループで1人が1つの音を演奏するようにすることで、全員で和音をつくるようにする。 ・グループで和音をつくることで、3つが違う和音であることを捉え、それぞれの違う響きを感じることができるようになる。 ・「和音の移り変わりが感じられたかな？」と投げかけ、実際に和音を演奏する活動の意義を確かめる。 ・最後に教材曲を鑑賞して教材曲の構造や和音の移り変わりを味わい、本時のまとめにつなげる。 																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>演奏楽器</th> <th>リズムや旋律</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管弦楽</td> <td>細かいリズム</td> <td>A (ブルー)</td> </tr> <tr> <td>合唱</td> <td>ゆるやかな和音</td> <td>B (ピンク)</td> </tr> </tbody> </table>	演奏楽器	リズムや旋律	分類	管弦楽	細かいリズム	A (ブルー)	合唱	ゆるやかな和音	B (ピンク)																				
演奏楽器	リズムや旋律	分類																											
管弦楽	細かいリズム	A (ブルー)																											
合唱	ゆるやかな和音	B (ピンク)																											
<p>(2) 和音で演奏される場所を確認する。</p> <p>3 和音の移り変わりを味わう。</p> <p>(1) Bの部分を鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの和音を確認する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>シ</td><td>ド</td><td>レ</td><td>レ</td><td>ド</td><td>シ</td><td>ラ</td> </tr> <tr> <td>ソ</td><td>ソ</td><td>シ</td><td>シ</td><td>ソ</td><td>ソ</td><td>ファ#</td> </tr> <tr> <td>レ</td><td>ミ</td><td>ソ</td><td>ソ</td><td>ミ</td><td>レ</td><td>レ</td> </tr> <tr> <td>I</td><td>IV</td><td>I</td><td>I</td><td>IV</td><td>I</td><td>V</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの和音をグループで演奏する。 ①グループ (ソ・シ・レ) (オレンジ) ②グループ (ソ・ド・ミ) (黄色) ③グループ (ファ#・ラ・レ) (緑) ・合奏する。 A→B→A→A→B→A→C <p>(2) 音楽を聴き、和音の移り変わりを味わう。</p>	シ	ド	レ	レ	ド	シ	ラ	ソ	ソ	シ	シ	ソ	ソ	ファ#	レ	ミ	ソ	ソ	ミ	レ	レ	I	IV	I	I	IV	I	V	<ul style="list-style-type: none"> ・I→IV→I→I→IV→I→Vの和音進行を掲示物で示し、「同じ和音があるか？」と投げかけ、B部分が「ソ・シ・レ」、「ソ・ド・ミ」、「ファ・ラ・レ」の3つの和音で構成されていることを確かめる。 ・3つの和音を3つのグループで分担し、グループで1人が1つの音を演奏するようにすることで、全員で和音をつくるようにする。 ・グループで和音をつくることで、3つが違う和音であることを捉え、それぞれの違う響きを感じることができるようになる。 ・「和音の移り変わりが感じられたかな？」と投げかけ、実際に和音を演奏する活動の意義を確かめる。 ・最後に教材曲を鑑賞して教材曲の構造や和音の移り変わりを味わい、本時のまとめにつなげる。
シ	ド	レ	レ	ド	シ	ラ																							
ソ	ソ	シ	シ	ソ	ソ	ファ#																							
レ	ミ	ソ	ソ	ミ	レ	レ																							
I	IV	I	I	IV	I	V																							
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 音楽の紹介文を書く。</p> <p>【期待される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この音楽は、途中にゆるやかな和音で演奏される場所があります。 ・この音楽は、細かいリズムのところと和音で演奏される場所の変化が楽しめます。 <p>(2) 次時の学習内容を知る。</p> <p>和音の移り変わりを感じながら演奏しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめとして、この音楽を紹介する文章をワークシートに記入する。 ・書けずに戸惑っている児童には、教師が個別に声をかけ、課題に対する本時の学習についての振り返りを言葉で書き表せるようにする。 ◇旋律や和音の変化を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の縦と横の関係を理解して聴いている。(エー①〈学習カード〉) ・学習意欲を喚起するため、次時の学習内容を伝える。 																												

授業実践を終えて【成果と課題】

本時は、①音楽の中から和音で演奏されているところを見つけ、②見つけた和音を実際に演奏してみること確かめ、③音楽を聴いて和音の移り変わりのよさを味わうという内容の授業であった。

①については、和音を合唱が担っているので、児童は比較的簡単に楽曲の中に和音を見つけることができた。②について、和音という音楽における縦の関係を意識できるようにするために、楽曲で使用される3つの和音をグループで演奏する活動を取り入れた。児童は、実際に演奏することで一つ一つの音の重なりが和音をつくり、違う和音が連なることで音楽の流れがつくられることを体感していた。③について、管楽器だけで演奏される部分と、管楽器の旋律に合唱の和音が重なる部分とが現れるという楽曲の構成を図で示したことで、教材曲の楽曲の構成を捉えることができた。

本時の目標である「和音の移り変わりのよさを味わっている」児童の姿として、「和音に移り変わると音楽の流れができる」ことを捉えている児童と設定していた。しかし、楽曲の構成まで盛り込んでしまったため、1単位時間内の学習内容が多くなってしまった。結果、和音に加わることのよさや教材曲の構成の面白さを感じ取ることができた児童は少なかったように思う。今後も、ねらいを明確にすることや、ねらいを達成するための様々な手立てを見いだせるよう、研鑽を重ねていきたいと思う。